

「地図豆」の地図を広げて街歩き

108-1 とうきょう湧水めぐり 8 本蓮沼から赤羽へ（約 5.5km）

（「その 37 軍都赤羽 1 番街商店街へ（5.5km）」と重複）

【街歩きの概要】

本蓮沼駅から湧水のある赤羽自然観察公園、稲付城跡（静勝寺）を経て、かつて軍都であったことを偲ばせる赤羽 1 番街商店街へと向かう。

【道順】

都営三田線本蓮沼駅から→国立西が丘サッカー場→東京陸軍兵器補給廠専用線跡 1→赤羽自然観察公園（湧水）→稲付城跡（静勝寺）→スターハウス→ミタマ古墳→東京陸軍兵器補給廠専用線跡 2→赤羽 1 番街商店街→JR 赤羽駅へ

ルートマップ



【街歩き解説】

① 国立西が丘サッカー場・国立スポーツ科学センター

辺りは、かつては東京兵器補給廠だったところ。

サッカー専用スタジアムである「味の素フィールド西が丘」と、スポーツ科学・医学・情報など先端的な研究と、充実した最新施設、器具・機材を活用して、国際競技力向上のた

めの支援をするスポーツ科学センターがある。兵器補給廠専用線跡は、この辺りから大きな曲線を描いた道となって赤羽自然観察公園方向へと続いている。

② 赤羽自然観察公園

かつては自衛隊十条駐屯地として使用されていたというが、地形図で見ると、周囲が開発されても、ここだけは谷地として残されていた。谷の奥には湧水と清流があることから、今は「自然とのふれあい」をテーマにした公園として整備されている。ふるさと体験館の前には、都心には珍しいたんぼが広がる風景が見られる。

赤羽という地名の由来は、赤い粘土ないしは赤土に由来するのだという。関東ローム層が露出した地域だからである。辺りの工事現場などでハケの露頭が見られれば、「赤羽」が実感できるだろう。



赤羽自然観察公園湧水 / ふるさと体験館とたんぼ

③ 兵器補給廠専用線跡・ミタマ古墳

赤羽には、明治初期に赤羽火薬庫があり、明治20年代以降には第一師団工兵第一大隊、近衛師団工兵大隊、王子火薬製造所、陸軍兵器支蔵造兵廠、陸軍火工廠稲付射場、十条兵器製造所などが都心から移転するなどして軍都の様相を示し始めた。このように軍需工場などの施設が多くあったので、専用引込線跡も発達しその跡も多く残っている。

ここは、兵器・弾薬・機材などの補給、要塞の備砲工事を担当した陸軍兵器補給廠専用線跡。赤羽台団地51号棟内側には、ミタマ古墳がある。



(自然公園手前) 兵器補給廠専用線跡 / ミタマ古墳

④ スターハウス

赤羽台団地 51 号棟内側にあるミタマ古墳を見てから、その形が、上空から見ると Y 字型、星状になっていることから、スターハウスと呼ばれたアパートを訪ねる。Y 字形になったアパートは、今では珍しいつくり。昭和 30 年代に整備されたスターハウス、歴史的建築物として一部が保存されようとしている。



スターハウス / 稲付城址（静勝寺）

⑤ 稲付城址（静勝寺）

鎌倉街道（岩槻街道）だったという台地の縁を通る道から階段を上った先にある静勝寺は、太田道灌が築いた稲付城址に、永正元年（1504 年）道灌の禅の師匠雲綱が死んだ名将の菩提を弔うために草庵を結び名付けたのが寺の起源であるという。

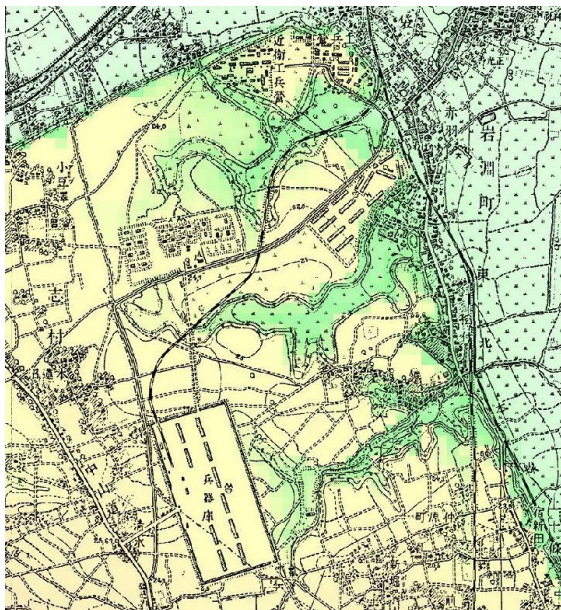
稲付城址のある静勝寺から四方を眺めれば、誰の眼にも要衝であったことがわかる。また武蔵野台地が東へとせり出した場所でもある。城址へ上る南坂あたりは、その傾斜と曲がり方がいい雰囲気醸し出している。

⑥ 赤羽 1 番街商店街

赤羽一番街商店街は戦前から商業活動があった地で、戦後いち早く復興を目的として組織されたのだという。本町通りと並行して北へ抜ける通りと、その東のシルクロードというアーケードがメインで、川魚・うなぎの店、個人経営の小さな飲み屋などが軒を連ねるレトロな感じが楽しめる商店街である。

地図豆知識：地形図で見る赤羽の変遷

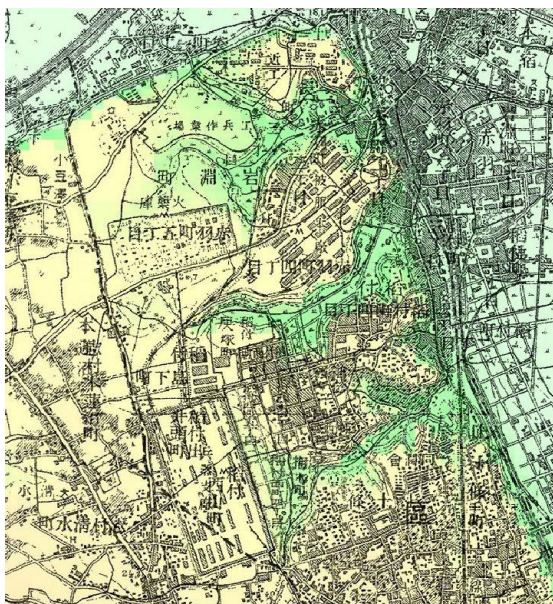
明治、大正、昭和などの古い地図（旧版地図）から、赤羽の歴史を読み取る。



明治 42 年測図

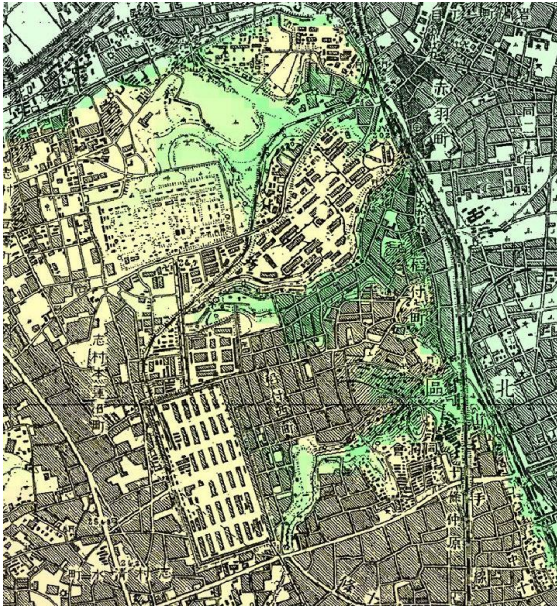
台地上には、北から順に「工兵營」、
「近衛工兵營」、（この間に弾薬庫が
並ぶ）「兵器庫」の文字が並ぶよう
すが、そして中央南北へ曲を描いて
走る貨物専用線も見えて、軍都赤羽
の始まりが見える。

それでも、台地上の残りの大部分
は畑地、荒川低地には田が広がって
いて、市街地や住宅は、ほぼ旧岩淵
町や旧街道筋周辺だけである。



昭和 7 年修正

赤羽駅西には「被服本廠」が進出
して、台地上はそのほとんどが、
軍関係施設となり、南の北十条地
域では、宅地化が進んでいるが、
台地の北や西には未だ耕作地が
残る。一方の荒川低地には路面電
車や貨物専用線路も延びて、「日
本製麻会社」が、この範囲ではな
いがその向こうにも軍施設や工
場が進出している。そして東南方
向には計画的な宅地造成が進展
する様子が見えて、耕作地はすっ
かり少なくなっている。



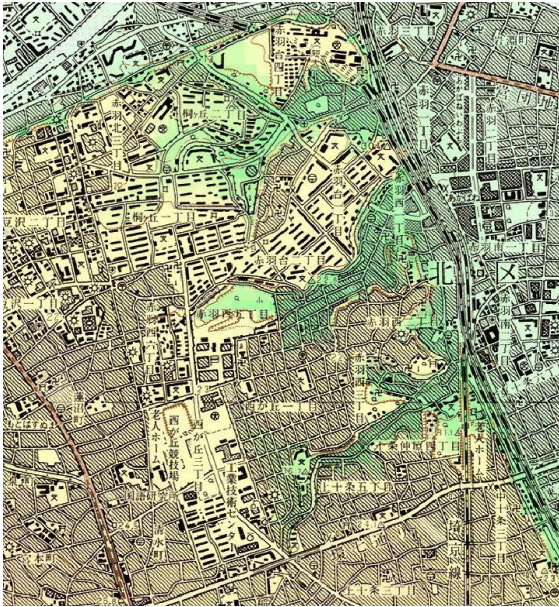
昭和 20 年修正

軍事機密のことから地図上に軍関係施設の文字は消されているが、台地には軍関係施設が所せましと広がり、そのすき間を埋めるように台地の上にも荒川低地にも一般住宅地が建築されている。それだけではない、かつては田や荒地であった地盤の悪い谷間さえも住宅で埋め尽くされている。図右下には関東大震災を機会に区画整理して作ったという同潤会の住宅地も見える。耕作地は一部の低地に残る程度で、ごく少なくなった。



昭和 41 年改測

辺りは、空襲で壊滅的な被害を受けたはずである。とくに軍事施設がやや少な鉄道東の市街地がひどかったらしいが、戦後 20 年そのようすは地図から見えない。かといって大きな改変が行われたようすも見えない。かつての軍関係用地の多くは、公共用地や住宅団地として開発され、一部は自衛隊の用地となった。路面電車（都電）は、まだ運行を続けているが、多くの貨物専用線は廃止された。図の北西（左上）の荒川低地さえも開発されて耕地は全く見えない。



赤羽駅市街地の整備が進み（「日本製麻会社」工場跡地の再開発）、高層建築物の建設が進む。車社会を反映した周辺の幹線道路、そして地下鉄の整備が進み、西が丘競技場を始めとした公園の整備も進む。一方で、老人ホームの文字がいくつも見えるのは時代を反映した結果である。

平成 13 年修正

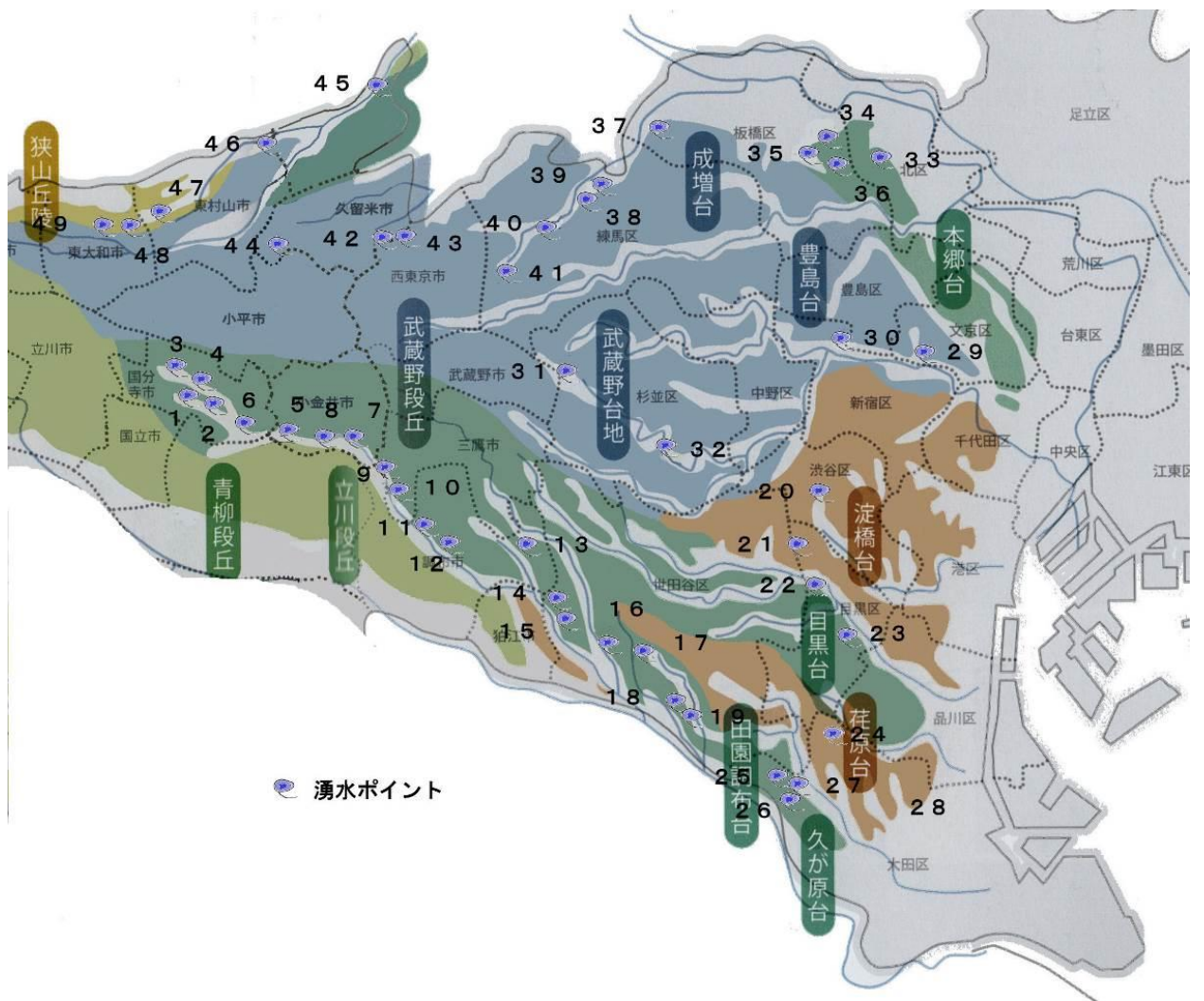
（いずれも地形図は「今昔地図」を使用）

地図豆知識：武蔵野台地の湧水

よく知られている武蔵野台地湧水には以下がある。

1. お鷹の道・真姿の池
2. 殿ヶ谷庭園
3. 姿見の池
4. 日立中央研究所
5. 貫井神社
6. 新次郎池
7. ハケの森美術館
8. 滄浪庭園
9. 野川公園
10. ほたるの里三鷹村
11. 深大寺
12. 都立農業高校神代農場
13. 実篤公園
14. 神明の森みつ池
15. 成城三丁目緑地
16. 大蔵三丁目公園
17. 岡本静嘉堂緑地

18. 五島美術館
19. 等々力溪谷・等々力不動尊
20. 清正の井
21. 東大駒場三郎池
22. 東山貝塚公園
23. 目黒不動尊
24. 清水窪弁財天
25. 田園調布せせらぎ公園
26. 六郷用水
27. 東調布公園
28. 山王清水公園
29. 関口芭蕉庵
30. おとめ山公園
31. 善福寺川 原寺分橋下流
32. 善福寺川 御供米橋下流
33. 赤羽自然観察公園
34. 小豆沢公園
35. 志村清水坂緑地
36. 見次公園
37. 不動の滝
38. 清水山憩いの森
39. 稻荷山憩いの森
40. 八の釜憩いの森
41. 大泉井頭公園
42. 南沢緑地
43. 竹林公園
44. 黒目川天神社
45. 金山調節池
46. 秋津公園
47. 多摩湖緑地
48. ニツ池公園
49. 湖畔集会所裏



武蔵野台地の湧水（東京都環境局「東京の名水 57 泉」から）

+ オフィス 地図豆 Yamaoka mitsuharu +++